

9月定例会

平成30年度決算など20件を認定・可決

令和元年第3回定例会は8月29日から9月27日まで開催され、初日には各会計の平成30年度決算、(仮称)海老名市消防署西分署建設工事の契約締結、幼児教育・保育の無償化に伴う条例改正、会計年度任用職員制度の導入に伴う条例の制定など17件が提案され、13件が委員会へ付託されました。最終日には新たに市長から1件の議案、議員から2件の議案と1件の意見書案が提案されました。ここでは、主な議案の委員会審査の概要を報告します。提案された全ての案件の件名および審議結果などは最終面「令和元年第3回定例会の会議結果」のとおりです。

(仮称)消防署西分署建設工事(建築)の契約締結について

議会の議決に付すべき契約として、今泉小学校東側に建設予定の(仮称)消防署西分署の建設工事(建築)について、議案が提出され、全員賛成により可決されました。総務常任委員会での審査概要は次のとおりです。

問 更衣室など女性隊員への配慮について伺います。

答 女性職員の働きやすい環境を整えるために、仮眠室、洗面所などを1カ所にまとめた女性エリアを設け、当直勤務などでもプライバシーの確保を図っていきます。

問 緊急出動時のサイレンの音など、隣接する小学校への配慮はどのように考えているか伺います。

答 サイレンの音量は、道路運送車両の保安基準により定められており、一定の音量以下で緊急走行することとはできないため、音量を最低限に確保した上で周波数を変えることで、耳ざわりではないソフトな音質にする住宅モードのサイレンなどを活用し、近隣環境への配慮を行います。

問 建設予定地は、あまり



(仮称)消防署西分署完成イメージ図

地盤がよくない場所だと思いますが、地盤改良など計画されているのか伺います。

答 事前に実施した地盤調査で、表層の部分は軟弱地盤であるということが判明しています。建物の沈下を防ぐため、強固な支持層に通常より多くの基礎のくいを打設することに対応を図ります。その他の敷地部分は、重量のある工作物は特ありませんので、問題ないと考えています。

幼児教育・保育の無償化に伴う関係条例の一部改正について

幼児教育・保育の無償化に伴い、関係法令が改正されたため、海老名市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の保育料を定める条例及び海老名市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正を行うもので、賛成多数により可決されました。文教社会常任委員会での審査概要は次のとおりです。

問 条例の改正内容の詳細について伺います。

答 保育料を定める条例では、保育料の無償化に伴い該当条項を改め、食材料費を定めることとし、主食費の上限を3千円、副食費は4500円とします。また、下今泉保育園の食材料費および延長保育料を指定管理者が徴収し、収入にするための規定を追加します。

運営に関する基準を定める条例では、費用を徴収しない世帯の規定を設け、食材料費のうち、副食費を徴収しないことを定めるほか、文言の規定の追加などを行います。

問 副食費の減免対象となる世帯数について伺います。

答 年収360万円以下相当額の世帯が対象で、保育所では約13%が、幼稚園では約9%の世帯が対象です。

問 改正に伴い、民間園などで事務負担が増えることがあるのか伺います。

答 副食費の徴収については負担増となりますが、それ以外については、これまでどおり市が行うこととなっていますので、負担増になることはないと考えます。

資源化センター大規模改修工事の契約変更について

資源化センターは、工事の支障となる地下埋設物の撤去処分に対応しながら改修工事を進めてきました。この地下埋設物の処理が完了し、撤去処分費の減額が生じたため変更契約を締結するもので、全員賛成により可決されました。経済建設常任委員会での審査概要は次のとおりです。

問 確認された地下埋設物の種類と土壌調査の結果について伺います。

答 地下埋設物はアスファルト、土間コンクリート、ビニール片の3種類だけで、想定どおりでした。土壌調査は土壌汚染対策法に定められた26物質について39項目の調査を実施したところ、全て基準値以下であり、土壌は汚染されていないことが確認できています。

問 地下埋設物の撤去処分費用について伺います。

答 3種類合計273立方メートルで、6912万円の費用を見込みましたが、実際には157・5立方メートル、4563万円で処理が完了し、2349万円の減額となりました。

問 地下埋設物を確認した場所について伺います。

答 主に旧施設の缶瓶の処理棟と容器包装プラスチックなどの貯留場所の間の通路部分から確認しました。

問 これまでの地下埋設物の経過について伺います。

答 大規模改修工事を行うにあたり、一部の埋設物は把握していましたが、想定していない場所から埋設物が発見され、昨年の7月補正予算で対応してきました。土間コンクリートの厚みが、試掘場所より全体的に薄かったことなどで、撤去処分費が見込みより減りました。